2027年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上場会社名　株式会社 安楽亭　　上場取引所　東
コード番号　7562　URL http://www.anrakutei.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 柳　先
問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長　(氏名) 町田 英之　TEL 048-859-0555

半期報告書提出予定日　2026年11月13日
配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：　有
決算説明会開催の有無　：　有　(証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年4月1日～2026年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	15,185	△0.4	426	△20.4	347	△26.8	201	△35.2
2026年3月期中間期	15,240	1.7	536	△28.3	475	△34.1	310	△41.2

(注) 包括利益　2027年3月期中間期　259百万円　(△21.9%)　2026年3月期中間期　332百万円　(△35.3%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	43.56	―
2026年3月期中間期	67.22	―

(注) 当社は、2025年10月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	25,533	8,455	33.1
2026年3月期	25,747	8,265	32.1

(参考) 自己資本　2027年3月期中間期　8,455百万円　2026年3月期　8,265百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	0.00	―	15.00	15.00
2027年3月期	―	0.00			
2027年3月期(予想)			―	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年 3月期の連結業績予想(2026年 4月 1日～2027年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,496	△1.0	1,100	△23.6	937	△29.0	605	△28.8	131.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 ： 無

新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期中間期	4,622,868 株	2026年3月期	4,622,868 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	4,692 株	2026年3月期	4,692 株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2027年3月期中間期	4,618,176 株	2026年3月期中間期	4,618,228 株

(注) 当社は、2025年10月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期中平均株式数(中間期)を算定しております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1．経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(中間決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2026年11月27日に証券アナリスト及び機関投資家向けの中間決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（セグメント情報等） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景に景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、物価高による消費者マインドの下振れリスクに加え、中東情勢の緊迫化や相次ぐ自然災害等の影響もあり、先行き不透明な状況が続きました。

外食業界におきましても、長期化する物価上昇と実質賃金の伸び悩みによって消費者の節約志向は強く、また、原材料価格やエネルギーコストの高騰、人手不足及び人件費上昇等により厳しい経営環境が継続しております。

このような環境において、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」を最重視した自然肉の商品提供を堅持しつつ、近年の消費者動向の変容に適応し、お客様に選んでいただけるお店づくりを進めるため、コストパフォーマンスや体験価値を追求した商品開発及び販売戦略に注力しております。

店舗の展開については、引き続き既存店舗のリニューアル改装やグループ内での業態見直しを計画的に進めております。また、昨今のニーズ多様化に対応する新業態開発にも継続的に取り組んでおり、2026年７月に、ファストカジュアル焼肉業態として「肉好き食堂グリタ」をオープン、続けて８月には、少人数で気軽に楽しめるファストカジュアルしゃぶしゃぶ業態として「しゃぶしゃぶＫＡＩ（かい）」を安楽亭既存店との併設にてオープンしました。新業態にて新たな外食体験をご提案し、顧客層の拡大に努めております。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高151億85百万円（対前年同期比0.4％減）、営業利益４億26百万円（対前年同期比20.4％減）、経常利益３億47百万円（対前年同期比26.8％減）、親会社株主に帰属する中間純利益２億１百万円（対前年同期比35.2％減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①　安楽亭・七輪房業態

安楽亭・七輪房業態の当中間連結会計期間末の店舗数は151店舗であります。内訳は直営106店舗、暖簾11店舗、ＦＣ34店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「安楽亭」では、９月にリニューアルした安楽亭浦和町谷店にて、常時20～25種類以上のたれや薬味・トッピングを自由に組み合わせて自分好みの味を作れる「魅惑のたれバー」を導入し、焼肉を何通りもの「味変」で楽しめる安楽亭の新サービスとして提案しております。合わせてお客様がスマートフォンからいくつかの質問に答えるだけで、その日の気分や好みに合わせたおすすめのたれをご提案する「たれ診断」も実施しております。安楽亭の新名物として導入店舗拡大を図ってまいります。

また、９月後半から、「安楽亭コスパ宣言」と銘打って、グランドメニュー、ランチメニュー、食べ放題コース等主要メニューを含め幅広く価格を改定（値下げ）しました。仕入高騰を背景としてメニュー価格上昇が続いていた状況に対して、「焼肉をリーズナブルに楽しめる」という安楽亭のブランドイメージを維持するため、価格ポジションの再調整を図ったものです。

「七輪房」においては、毎年恒例の「松阪牛」メニューを店舗限定にて提供し、極上の品質価値を実感いただける施策を展開したほか、本場韓国式の冷麺をお楽しみいただく「夏のまぜ冷麺フェア」も実施する等、来店促進を図りました。

以上の結果、安楽亭・七輪房業態の当中間連結会計期間の売上高は49億36百万円（対前年同期比10.7％減）となり、セグメント利益（営業利益）は58百万円（対前年同期比58.1％増）となりました。

②　アークミール業態

アークミール業態の当中間連結会計期間末の店舗数は133店舗であります。内訳は直営131店舗、ＦＣ２店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「しゃぶしゃぶＫＡＩ」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、ステーキのどんの「牛タングリルフェア」、しゃぶしゃぶどん亭の「２種の麻辣湯しゃぶしゃぶ」、フォルクスの「夏を頬張る　彩りステーキフェア」等、新メニューのフェア企画を展開し、来店促進を図りました。

「しゃぶしゃぶＫＡＩ」は、しゃぶしゃぶどん亭のノウハウを生かしつつ、お好みに合わせて自由に、日常的に楽しめる、ファストカジュアル型のしゃぶしゃぶ新業態として、2026年８月に安楽亭根岸店を改装し、安楽亭との併設の形で出店いたしました。

以上の結果、アークミール業態の当中間連結会計期間の売上高は99億48百万円（対前年同期比5.2％増）とな

り、セグメント利益（営業利益）は５億93百万円（対前年同期比13.2%減）となりました。

③　その他業態

その他業態の当中間連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営８店舗、ＦＣ２店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「肉好き食堂グリタ（ファストカジュアル焼肉）」、「上海菜館（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

「肉好き食堂グリタ」は、肉のクオリティ、ボリューム、コストパフォーマンスを兼ね備えた、食堂スタイルの「ファストカジュアル焼肉」新業態として、安楽亭稲毛駅前店を改装して2026年７月にグランドオープンしました。また、安楽亭ベトナムでは、2026年５月にホーチミン市内にて新店舗「ファンシックロン通り店」をオープンし、現在４店舗体制にて展開しております。

以上の結果、その他業態の当中間連結会計期間の売上高は２億99百万円（対前年同期比18.4%増）となり、セグメント損失（営業損失）は20百万円（前年同期はセグメント損失10百万円）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①　財政状態の状況

当中間連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ２億14百万円減少し、255億33百万円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ４億４百万円減少し、170億77百万円となりました。これは、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ１億90百万円増加し、84億55百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益の計上等が要因です。

②　キャッシュフローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、６億61百万円減少し、73億26百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益の計上３億45百万円、減価償却費４億46百万円等の収入、棚卸資産の増加額１億42百万円等の支出等により４億71百万円の収入となりました。前年同期は５億45百万円の収入でありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出３億13百万円、無形固定資産の取得による支出68百万円等により３億18百万円の支出となりました。前年同期は３億63百万円の支出でありました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入３億50百万円、長期借入金の返済による支出８億63百万円等により８億14百万円の支出となりました。前年同期は２億80百万円の支出でありました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の通期連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の実績及び足元の状況を鑑み、2026年５月14日に公表しました通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（2026年11月12日）公表いたしました「2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績予想値と実績値との差異及び2027年３月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,988,510	7,327,221
売掛金	1,382,156	1,250,119
商品及び製品	655,652	777,123
仕掛品	10,858	9,774
原材料及び貯蔵品	1,252,830	1,275,221
前払費用	311,062	345,442
その他	91,612	59,788
貸倒引当金	△1,630	△1,430
流動資産合計	11,691,053	11,043,262
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,155,830	3,525,475
機械装置及び運搬具（純額）	33,979	36,042
工具、器具及び備品（純額）	710,546	764,212
土地	6,068,882	6,068,882
リース資産（純額）	110,087	105,333
建設仮勘定	12,663	5,797
有形固定資産合計	10,091,990	10,505,745
無形固定資産	646,471	671,447
投資その他の資産		
投資有価証券	260,501	337,473
長期前払費用	43,238	40,213
繰延税金資産	166,445	137,519
敷金及び保証金	2,830,970	2,780,924
その他	27,453	27,453
貸倒引当金	△23,313	△23,313
投資その他の資産合計	3,305,295	3,300,271
固定資産合計	14,043,757	14,477,464
繰延資産		
社債発行費	13,005	12,320
繰延資産合計	13,005	12,320
資産合計	25,747,816	25,533,047

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,004,895	952,296
短期借入金	2,350,000	2,450,000
１年内返済予定の長期借入金	2,417,890	2,258,388
リース債務	49,298	51,510
割賦未払金	590,922	641,135
未払金	319,453	355,202
設備関係未払金	66,224	75,695
未払費用	843,136	806,559
未払法人税等	210,208	171,683
未払消費税等	195,347	186,478
賞与引当金	145,150	133,850
店舗閉鎖損失引当金	―	3,870
資産除去債務	―	1,322
その他	426,869	295,202
流動負債合計	8,619,396	8,383,193
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	5,829,606	5,475,958
リース債務	132,566	122,341
長期割賦未払金	1,271,624	1,474,185
繰延税金負債	107,068	108,103
役員退職慰労引当金	181,312	187,786
退職給付に係る負債	388,578	390,074
資産除去債務	349,533	345,532
その他	102,260	89,958
固定負債合計	8,862,550	8,693,939
負債合計	17,481,946	17,077,133
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,790,461	3,790,461
資本剰余金	1,166,680	1,166,680
利益剰余金	3,200,160	3,332,048
自己株式	△14,181	△14,181
株主資本合計	8,143,121	8,275,008
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	109,537	166,743
為替換算調整勘定	16,801	17,080
退職給付に係る調整累計額	△3,590	△2,918
その他の包括利益累計額合計	122,749	180,905
純資産合計	8,265,870	8,455,914
負債純資産合計	25,747,816	25,533,047

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	15,240,895	15,185,056
売上原価	5,855,237	5,698,319
売上総利益	9,385,658	9,486,736
販売費及び一般管理費	8,849,177	9,059,830
営業利益	536,481	426,905
営業外収益		
受取利息	4,175	6,891
受取配当金	2,645	3,174
受取地代家賃	26,520	23,523
その他	18,295	19,750
営業外収益合計	51,636	53,339
営業外費用		
支払利息	100,645	124,065
支払手数料	1,000	1,027
賃貸収入原価	6,148	3,208
その他	5,061	4,282
営業外費用合計	112,855	132,584
経常利益	475,262	347,660
特別利益		
固定資産売却益	363	83
受取補償金	150,000	62,341
特別利益合計	150,363	62,424
特別損失		
固定資産除却損	11,659	7,011
減損損失	30,979	48,066
賃貸借契約解約損	46,985	9,219
特別損失合計	89,625	64,296
税金等調整前中間純利益	536,000	345,788
法人税、住民税及び事業税	123,104	134,771
法人税等調整額	102,449	9,856
法人税等合計	225,553	144,627
中間純利益	310,446	201,160
親会社株主に帰属する中間純利益	310,446	201,160

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	310,446	201,160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,228	57,206
為替換算調整勘定	△4,146	278
退職給付に係る調整額	△488	671
その他の包括利益合計	21,593	58,156
中間包括利益	332,040	259,316
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	332,040	259,316

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	536,000	345,788
減価償却費	381,989	446,418
減損損失	30,979	48,066
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△600	△200
賞与引当金の増減額（△は減少）	△12,990	△11,300
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	6,473	6,473
店舗閉鎖損失引当金の増減額（△は減少）	19,441	3,870
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△3,239	2,505
受取利息及び受取配当金	△6,820	△10,065
支払利息	100,645	124,065
為替差損益（△は益）	1,560	684
固定資産売却損益（△は益）	△363	△83
受取補償金	△150,000	△62,341
固定資産除却損	11,659	7,011
賃貸借契約解約損	46,985	9,219
売上債権の増減額（△は増加）	230,646	132,036
棚卸資産の増減額（△は増加）	△198,095	△142,778
前渡金の増減額（△は増加）	△354	6,874
仕入債務の増減額（△は減少）	△177,645	△52,599
未払金の増減額（△は減少）	2,623	35,488
未払消費税等の増減額（△は減少）	14,337	△8,868
未払費用の増減額（△は減少）	△65,213	△41,261
預り金の増減額（△は減少）	△74,697	△65,286
前受収益の増減額（△は減少）	1,526	△11,412
その他	20,459	△26,666
小計	715,309	735,638
利息及び配当金の受取額	6,389	9,591
利息の支払額	△95,399	△119,507
補償金の受取額	75,000	18,710
店舗閉鎖に伴う支払額	△14,672	△5,349
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△140,991	△167,665
営業活動によるキャッシュ・フロー	545,635	471,416

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△315,015	△313,020
有形固定資産の売却による収入	363	83
無形固定資産の取得による支出	△69,225	△68,064
敷金及び保証金の差入による支出	△10,327	△2,797
敷金及び保証金の回収による収入	26,000	53,074
預り保証金の返還による支出	△6,000	△7,500
預り保証金の受入による収入	2,500	―
貸付けによる支出	―	△42
貸付金の回収による収入	177	―
投資その他の資産の増減額（△は増加）	8,045	19,962
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363,481	△318,304
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	116,000	100,000
長期借入れによる収入	100,000	350,000
長期借入金の返済による支出	△709,114	△863,150
社債の発行による収入	486,310	―
割賦債務の返済による支出	△183,057	△308,992
リース債務の返済による支出	△20,683	△22,872
自己株式の取得による支出	△912	―
配当金の支払額	△68,970	△69,012
財務活動によるキャッシュ・フロー	△280,428	△814,027
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,404	△377
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△101,678	△661,292
現金及び現金同等物の期首残高	7,190,101	7,987,494
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,088,422	7,326,202

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	安楽亭・七輪房業態	アークミール業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	5,527,130	9,460,673	253,092	15,240,895	15,240,895	―	15,240,895
外部顧客への売上高	5,527,130	9,460,673	253,092	15,240,895	15,240,895	―	15,240,895
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―	―	―
計	5,527,130	9,460,673	253,092	15,240,895	15,240,895	―	15,240,895
セグメント利益又は損失(△)	37,182	683,509	△10,277	710,414	710,414	△173,933	536,481

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（注）２．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「安楽亭・七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては30,979千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	安楽亭・七輪房業態	アークミール業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	4,936,440	9,948,923	299,692	15,185,056	15,185,056	―	15,185,056
外部顧客への売上高	4,936,440	9,948,923	299,692	15,185,056	15,185,056	―	15,185,056
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―	―	―
計	4,936,440	9,948,923	299,692	15,185,056	15,185,056	―	15,185,056
セグメント利益又は損失(△)	58,780	593,605	△20,899	631,486	631,486	△204,580	426,905

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（注）２．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アークミール業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては48,066千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。